

## カンマの使い方

パンクチュエーションのうちビジネス英文で一番よく使うのがカンマです。セミコロンやコロンのために顔を出しますが、英文の作り方と直結する問題ですので、ひとまずカンマの使い方をしっかり頭に入れておく必要がありますし、また、それで十分です。

カンマを使ううえでのパターンは以下で説明するとおり、センテンスどうしを「結ぶカンマ」、センテンス内を「区切るカンマ」、そしてセンテンス内の異質の要素を「くくり出すカンマ」の三つに大別できますが、ポイントは、人になぜそのカンマを打ったのかを説明できないようであれば、入れないことです。

### 1 二つのセンテンスを「結ぶ」カンマ

二つの独立したセンテンスどうしを結ぶときは、原則として最初のセンテンスの終わるところにカンマを打ち、次に and, but, or, nor, yet, so, for といった等位接続詞を入れてから続く二つ目のセンテンスを書きます。

It looked difficult, so we didn't try. (むずかしそうに見えたので、試みませんでした)

注記： こういった場合に It looked difficult, we didn't try. という具合に等位接続詞を入れないうまにカンマだけで結ぶと comma splice とか run-on sentence と呼ばれる典型的な誤用例とされてしまうので注意を要します。ポイントは and, but, or, nor, yet, so, for という7つの等位接続詞しかカンマと一緒にあって二つのセンテンスを結ぶ力が認められていないということです。うっかりすると、therefore, hence, however といったものとカンマで二つのセンテンスを結んだりしますが(実際、英米の人でもよくやる間違いです)、例えば It looked difficult, therefore we didn't try. と書いたりする人がいますが、これは間違いです。

例外的に結ばれるセンテンスが二つとも短いときはカンマを打たずに、等位接続詞だけで二つのセンテンスをつなぐことが認められています。例えば、We used to produce X but we discontinued it last year. (製品Xを製造していたものだが、昨年打ちきった) という具合にです。特に両センテンスの主語が共通だとこのようにカンマを入れずに接続詞だけで二つのセンテンスを結ぶ傾向が強いと言えます。なお、省略できるのはカンマであり、こういった場合に接続詞まで省いてしまいますと、先述した comma-splice となり、間違いとされます。

### 2 1センテンス内で「区切る」カンマ

区切るカンマはさらに主たる部分である「基本セット」とその他の従たる部分を区切るカンマとセンテンス内を整理するために区切るカンマに分けることができます。

#### 2-1 主従の別を示すために区切るカンマ

A) 基本セットに先行してイントロ部分を入れる場合は原則的にイントロ部分の終わる所にカンマを入れます。

After working all day at the office, she still had a huge backlog. (一日中オフィスで働いたあとも、彼女はとてつもない量のやり残しを抱えていた)

但し、例外的にイントロ部分が短い場合(3-5単語を超える程度を言います)は、カンマを省略します。なお、これは飽くまで省略できるということであり、読みやすさを重視する人は丹念にカンマを入れるものです。スタイルの問題ということであり、実際、BusinessWeek や Newsweek は冒頭の短いフレーズでも基本的にカンマを打っています。

In 1952 our company was incorporated in Delaware. (私どもの会社は1952年にデラウェア州で設立されました)

B) 「基本セット」が終わったあとに、追加の情報を入れる場合は、「基本セット」が終わるところ、つまり、追加部分の始まる場所にカンマを入れます。

- (1) Thank you for your message of March 31, inquiring about Model XX. (モデルXXに関して問い合せてくださっている3月31日付けのメッセージを拝受いたしました)
- (2) XYZ Inc. eventually collapsed, reducing the owner's equity to nothing. (XYZ社は最終的に破綻し、株主の持分は無に帰した)
- (3) A tariff is a tax assessed on goods when they enter a country, raising the price of imported goods. (関税というものは、ある国に入ってくる品にかけられる税金で、これにより輸入品の価格が押し上げられる)

以上の基本セットのうしろに追加される部分もよく見ると三つのパターンがあることを見てとれます。すなわち(1)は..., which inquires about Model XX. と書き換えることに現われているとおり、関係節を簡略化したものです。(2)のパターンは同一主語の行為を表す二つの動詞のうち、あとの方を分詞句にしています。この種のパターンの場合、よく見ますと、分詞句は「基本セット」の動

詞につき、方法、原因、結果、目的、手段等を説明する副詞的な役割を果たしているものです。(3)は、先行する「基本セット」全体を受けて、this + 動詞の ing 形で追加情報を示すパターンです。例えば、A tariff is a tax assessed on goods when they enter a country, raising the price of imported goods. は A tariff is a tax assessed on goods when they enter a country. *This raises* the price of imported goods. と書き換えることができます。

## 2-2 整理するためのカンマ

整理するためのカンマは、さらにセンテンス内を整理して、読みやすくするためシリーズの要素を区切るカンマと、形容詞を区切るカンマとに分けることができます。

A) シリーズを区切るカンマというのは、主語、目的語等が複数の要素から成り立っているときに、最後の要素の前を除き、個々の要素の境目に and 代わりに入れるカンマです。文芸作品ではカンマではなく and でつないだりもしますが、実務文ではカンマを使います。

複数の主語 → Tokyo, Paris and Rome are the places where we have sales offices. (東京、パリ、ローマ。私どもが営業所を置いているのはこの三ヶ所です)

複数の目的語 → We produce X, Y and Z. (わた子どもが製造しているのはX、Y、そしてZです)

複数の that 節 → We believe that the proposed product is patentable, that it will be widely accepted by the consumer and that it will help drive sales growth. (わた子どもとしては、企画中の製品が特許を取れること、広く消費者に受け入れられること、そして売上拡大の一助となることを確信している)

B) 形容詞を区切るカンマというのは、同格の形容詞がいくつか名詞の頭に付いているときに、形容詞の間に (and の代わりに) 打つカンマのことです。

Management gave a clear and informative presentation. 経営陣は明快かつ

ここでのポイントは形容詞どうしが同格の場合にだけ、その間に and 代わりにカンマを打てるということです。それではどういう場合に同格と言えるのでしょうか。二つの形容詞がある場合、その二つを and で結んでも響きがおかしくならず、また、場所を入れ替えても通じるなら同格だとされます。上の例で形容詞が同格かをテストしてみましょう。まず and でつないでみます。That was a clear *and* informative presentation. → ? → OK。次に入れ替えてみます。That was an *informative and*

*clear* presentation. → ? → OK。そこで That was a clear, informative presentation. それでは、「いい、フランス料理の店」ということで、fine と French を並べる場合はどうでしょうか。テストをしてみます。That was a fine and French restaurant. → ? → NO → That was a fine French restaurant. BUT NOT That was a fine, French restaurant.

## 3. センテンス内の異質の要素を「くくり出す」カンマ

英文の「基本セット」は主語、動詞、そして主格補語 (be 動詞等をはさんで主語を説明しなおすもの) または目的語 (他動詞が働きかける相手) という具合に順序よく並んでいるのが原則です。ときには主語の部分や動詞の右側に来る補語や目的語の部分が、句 (単語のグループ) や節 (主語と述語動詞を備えた単語のグループ) という形で、いわば大型化していることもあります。形式はどうあれ、一体として補語または目的語と扱われます。そこで「基本セット」における基本的な構成を破るような語句を挿入する場合は、カンマでくくり出すのが約束ごとになっています。

A) 典型的には人の肩書きです

Mr. Junichiro Koizumi, Prime Minister of Japan, gave a speech yesterday to emphasize the importance of the ongoing structural reform. 日本の総理大臣、小泉純一郎氏は現在進められている構造改革についてスピーチをした。

注記 ここでは主語である Mr. Junichiro Koizumi と動詞の give の間に、補足情報とはいえ、余計なものが入っている格好になっているので、その部分を括りだすわけですが、おもしろいもので、同じ補足情報でも、The Prime Minister of Japan Junichiro Koizumi gave a speech yesterday... という具合に名詞に先行し、肩書きとして一体化しているときは、カンマを打ちません。

B) その他の補足情報

カッコ書きにしてもよい付けたりの部分や同格表現 (= 言い換え) の左右にもカンマを打って、くくり出します。

The project will be completed, according to our estimate, in two weeks. (このプロジェクトは私どもの見積もりでは2週間で完了します)

注記: 上の挿入部分、according to our estimates は文頭に出してもよく、また、最後尾に回してもいいわけで、こういったところに、この挿入句が付けたり的なものであって、削除しても基本的

な意味に変わりがないことをうかがえます。

#### C) 接続副詞

接続副詞たとえば however, therefore, thus, hence といったものを文頭に持ってくる場合は、やはりそのセンテンスの本質的部分ではない、つまり「基本セット」を構成する要素ではないということで、カンマを入れてくり出します。

On the face of it, the proposed deal looks attractive. However, viewed from a different angle, it looks different. 一見したところ、提案されている取引は妙味があるように見えます。しかし、角度を変えて見ると、違った様子が見えてきます。

注記) この however も補足的な挿入句と同じで、位置を変えることができます。例えば、文頭で何度か however や therefore を使っているうちにくどくなってきましたから、趣を変え、however の位置を下のようにずらすことが結構あるものです。

However, it looks different. = It, however, looks different. = It looks different,

however.

#### 4. カンマと他の句読点の関係

カンマと引用符が重なる場面では、カンマを引用符の内側に入れるのがアメリカ式です。

"If you fax this invoice," my colleague said, it will reach our client today. (この請求書をファックスすれば、きょう、うちの顧客に届くはずだと同僚は言った)

注記 イギリス式の場合は、"this invoice", という具合にカンマが右側の引用符の外側に来ます。しかし、それだけではイギリス式にはなりません。イギリス式となると、最初に使う引用符は一重で、二重のものは一重の引用符でかこまれた文中において再度引用符を使うときのものと決まっているからです (アメリカ式は逆に引用文の中の引用符は一重です)。つまり、"this invoice" ではなく、'this invoice' という形になります。従って、"If you fax this invoice", my colleague said... というふうには引用符がアメリカ式なのに、カンマだけ外側に出ていると、どちらつかずとなります。